

令和6年度 産業教育常任委員会先進地視察研修報告書

○期 日：令和6年10月30日（水）・31日（木）

○視察地：宮城県仙台市・岩手県北上市

○参加者：委員7名・随員1名 合計8名

宮城県仙台市（ろりぽっぷ小学校）

○人 口 1,064,904人（令和6年9月1日現在）

○面 積 786.35km²

○議員定数 55人

○視察調査事項

『小学校跡施設を利活用した学びの多様化学校の運営について』

1. 視察地及び調査事項選定の理由

当常任委員会では「学校を取り巻く環境の整備について」を研究テーマの一つとしているが、栃木市の教育においては、全国的な傾向と同様に、不登校児童生徒数は増加傾向にあり、不登校支援の重要性は高まっている。

また、本市教育委員会では、不登校または不登校傾向にある児童生徒に対して、学校復帰を含む社会的自立に向けた指導及び支援を行うため、公民館等の市有施設を利用し、市内5か所に教育支援センターを設置しているが、多くの施設で老朽化が進んでおり、教育支援センターの在り方を検討することが必要な状況となっている。

視察先とした宮城県仙台市のろりぽっぷ小学校は、令和5年4月1日に開校した学びの多様化学校（不登校特例校）で、平成27年3月に閉校となった旧坪沼小学校の跡施設を利活用している。

学びの多様化学校とは、学校教育法施行規則に基づき、不登校児童の実態に配慮した特別な教育課程に基づく教育を行う学校で、児童の学習状況にあわせた少人数指導等、教育課程を独自に編成し、通いやすい環境を整えることが可能になっている。

上記の点から、ろりぽっぷ小学校の取組と具体的な成果等を調査するものである。

2. ろりぽっぷ小学校について（研修説明内容）

（1）設置までの経過

ろりぽっぷ小学校は、平成27年3月に廃校になった仙台市立坪沼小学校の跡地施設利活用事業に係る公募型プロポーザルにおいて事業候補者として選定され、令和5年4月1日に学びの多様化学校として開校に至った。

（2）教育理念と学校運営について

①教育理念について

ろりぽっぷ小学校の教育理念は「大人も子どもも育ちあう学園を目指して子どもの心に寄り添う保育 ※保育＝養護と教育」を掲げ、大人が「どういう子に育てたいか」ではなく、子ども一人ひとりが「どう育とうとしているか」を大切に、子どもたちと対話の時間をしっかりととり、子どもの声に耳を傾けながら、一緒に遊びをつくりあげ、子どものところに寄り添い、子どものやりたいことをできるようにしていくことで、総合的な育ちにつなげていくことを目指している。

一人一人が多様な可能性を潜ませていながら、今の画一的な教育の中で萎えてしまっている若者たちの秀れた資質を引き出し、想像力を解放し、心の自由を育てていく不登校児を対象とした小学校で、不登校児童のコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とした心理教育やカウンセリングスキルの活用を促進させ、児童一人一人が継続的に学ぶことができる学校をつくりだすことを目指している。

②独自の教育課程「ろりぽっぷプラン」について

ろりぽっぷプランとは、ろりぽっぷ小学校の教育理念に、オランダで取り組まれているイエナプラン教育のコンセプトを活用し、学習内容を自己選択・自己決定・自己対応できるように配慮し、興味・関心のある学習内容から活用し、得意とする学び方で学びの場を設定している。

○ろりぽっぷプランの主な特徴

・「人間・キャリア科」の新設

発達障害やいじめ・不登校児童のコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とした心理教育やカウンセリングスキルを活用し、人間関係づくりを学ぶ。また、保護者に対してのストレスマネジメント・カウンセリングの機会を設け、カウンセリングのスキルを活用したプログラムを用意して、保護者も交えて授業を計画しており、不登校児童に悩む保護者の支援も行っている。

・「個別学習」の設定

一人一人の状況に応じた指導体制の充実を図るために「個別学習」の時

間を設定し、一人一人のペースに合わせた学習の時間を確保し、個人の進度に児童が在籍する学年の単元ではなく、上学年の単元や下学年の習得ができなかった単元を学んだりすることができるように、学年の枠を超えた異年齢グループでの学びも行っている。

・様々な人との交流活動・様々なことでの体験

コミュニティー・スクール（学校運営協議会制度）を活用し、様々な世代の人々との触れ合いを通して、人間としての良さの体験を実感する場面・機会を多く設けます。さらに動植物とのふれあい体験や校内や地域の素材を生かした体験活動を取り入れている。

※イエナプラン教育とは…子どもが自ら考え、行動する自発的な態度や、他者を尊重し互いに協力し合う姿勢を目指す教育で、科目別に分けた日課ではなく、4つの基本活動「対話」「遊び」「仕事（学習）」「催し」をリズムカルに循環させた時間割で学んでいる。

「対話」…サークルになって対話を行う。自分の意思を相手に伝えたり、相手の意見を聞く経験を通して、自分の考えを深めたり、信頼関係を深めることができるように取り組む。

「遊び」…遊びの中にも学びがあると考え、子ども一人一人がどんなことに興味を持っているのか、どんなことが得意なのかを知り、個別の学習計画の作成に繋げていき、明日も行きたくなる学校になるように取り組む。

「仕事」…仕事はブロックアワーとワールドオリエンテーションに分けられ、ブロックアワーでは、個別の学習計画に基づき、一人一人の学習進度に合わせて学習を進めていき、ワールドオリエンテーションでは、子どもたちの好奇心をもとに身の回りにある様々な問いを、ブロックアワーで身に着けた学習スキルを活用しながら探求していく。

「催し」…運動会や学習発表会などの行事以外にも、ワールドオリエンテーションで探求したことを簡単なプレゼンテーションとして発表し、お互いの発表を聞くことで、興味の枠を広げたり、学びを深めることに繋げる。

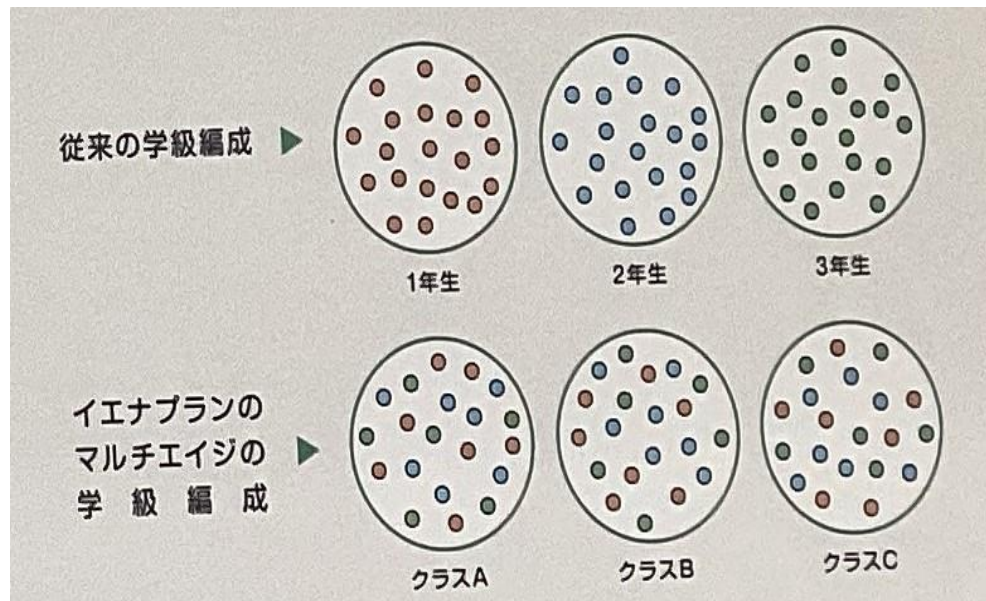
③授業について

教室…イエナプラン教育では、教室は子どもたちにとって居心地の良いリビングルームのようであるべきだとされており、ろりぽっぷ小学校においても、教室を子どもたちにとって安心できる場所になるように環境を整え、必要であれば子どもたちと環境を作り替え

ていく。

学級…1～3年生、4～6年生の3学年による学級編成にすることで、周囲と比較することなく、学年の枠を超えて子ども一人一人の学習ペースで学習できるように配慮している。また、一人一人の個性や違いが当たり前になり、個性や違いを自然と受け入れながら過ごすことができる。

イエナプランのマルチエイジの学級編成（研修資料より抜粋）



ろりぽっぷ小学校の日課表（研修資料より抜粋）

●ろりぽっぷ小学校 日課表

授業がある月曜日から金曜日の日課表です。

1～6年生

		月	火	水	木	金
朝	9:15	(週計画)	サークル(人間キャリア)			
	9:30		一日の予定確認 & 休み時間			
	9:40					
1 時間目		ブロックアワー				
	10:25	休み時間 & おやつ				
	10:45	ブロックアワー				
2 時間目		ブロックアワー				
	11:30	ブロックアワー				
3 時間目		おひるごはん & あそび				
昼	12:15					
	13:00	ワールドオリエンテーション				
4 時間目		ワールドオリエンテーション				
	13:45	ワールドオリエンテーション				
5 時間目		ワールドオリエンテーション				
	14:30	サークル (人間キャリア)	サークル 下校			サークル (人間キャリア)
帰り	14:45					

(3) 学校周辺の環境

ろりぽっぷ小学校は宮城県仙台市南西部の坪沼地区に位置し、仙台市の中心部から車で約30分の自然豊かな山間の場所にある。ろりぽっぷ小学校は、コミュニティ・スクールとして地域の声を大切にした学校運営を行っており、様々な活動を学校と地域が協力して行うことで、子どもたちと地域が日常的につながる機会を設けている。また、地域住民が学校スタッフとして勤務するなど、児童、保護者、地域住民の交流の場として、坪沼地域のネットワークの拠点となっている。

(4) 校舎について

ろりぽっぷ小学校は平成27年3月に廃校になった仙台市立坪沼小学校の校舎を仙台市から借り受けて、開校しており、2階建ての校舎は廊下との境のない教室、太陽の光が差し込む吹き抜けの多目的ホール、広々とした体育館など、四季折々の景色の中で明るく、のびのびと過ごすことができる開放的な構造になっている。

3. 所感

- ・ろりぽっぷ学園長の考えとして、「不登校という言葉をなくしたい。」との想いでスタートしたこの小学校は、他の自治体の手本となる内容であると考えている。なぜならば、子どもたちが目を輝かせてお菓子作りなどの実習や体育館での遊びを行っていたこと、さらに子どもたちを迎えに来た保護者も明るい表情を見せていたことである。このような場所を栃木市教育支援センターでも取り入れられる部分があると感じた。
- ・新型コロナウイルス感染症流行後、児童生徒の不登校が全校的に増加し、児童生徒の自殺も最多となっており、コミュニケーションや創造力、人間としての良さの体験を実感する場面、機会を多く設けることが重要であり、本市にも学びの多様化学校の必要性を感じた。
- ・ろりぽっぷ小学校については、不登校等により小学校に通えない児童のために開校されており、卒業資格も取得できる私立学校として運営を行っていることに共感を持つことができた。不登校の子どもたちには様々な支援策があり、フリースクール等もあるが、フリースクールは卒業資格を得ることができず、保護者にとっては心配の種になっていると思う。ろりぽっぷ小学校は、経営状況が非常に厳しいとのことであるが、そのような状況下で、様々な理由で学校に通えない児童を受け入れ、実際に不登校で通えなくなった学校に児童を復帰させた事例もあり、本当の意味で教育施設として素晴らしい取り組みを行っていると感じた。行政としては他の私立小

学校と同じ扱いであるため、支援が得られていない状況にあり、何らかの支援策が必要であると強く感じた。今後の多様化社会において必要とされる形態の学校であると感じたため、本市においても検討課題としたい。

- ・閉校となった仙台市立坪沼小学校の旧校舎を利用して開校したとのことであり、1999年に建設された校舎であることからまだ十分に使用できる校舎であり、市有施設の有効活用の面からも良い取り組みであると考ええる。何より田と畑と山に囲まれた自然の中にある太陽の光が差し込む明るい校舎の中で、児童がのびのびと学び、遊ぶ姿に感銘を受けた。また、異年齢学級、児童自身が作る1週間の計画等の特徴的な学校運営は非常に興味を惹かれる点であった。
- ・十分とは言い難い予算の中で、不登校の児童に寄り添い、必死で勤務している先生方の賃金実態の説明を受け、あまりの低さに耳を疑うとともに、教育内容と反比例するその処遇は私立学校の宿命では片付かれないと感じた。市からの援助は、通学費の補助のみであり、校舎の賃借料も市に支払っていることから、行政の支援のなさに驚きを隠せなかった。それでも学校運営や先生方の指導にはそういった姿が微塵も感じられず、感動と同時に行政は教育に予算をかけるべきことを感じた。
- ・2023年度の全国の不登校の児童生徒数は過去最多の34万人余となり、11年連続で増加している。本市でも不登校児童生徒が増加しており、不登校の子どもたちの居場所が大きな課題となっている中、今回のろりぽっぷ小学校の視察はその理想形の一つを見せてくれたように思う。校内を見学する前に、校長先生が座学で説明をしてくださり、「この学校はメソッドでなく、コンセプト」と発言されたが、校舎内の設えや、校内の児童の様々な学習を生き活きと行っている様子を目の当たりにして、その発言に納得した。本市において「適応指導教室」の名称が「教育支援センター」となったが、これは単に名称の変更ではなくコンセプトの変更に裏打ちされていなければならないと、今回の研修で示唆を受けた。保護者との連携も優れていると感じた。ホール壁面に「保護者の声でつくる子ども達の未来と新しい学びの場」と題して、畳1畳ほどのカラー用紙に本学校の保護者対象のアンケート結果がわかりやすくグラフ化して張り出され、保護者から学校への要望、保護者が入学後の子どもの変化をどうとらえているかなどを知ることができた。ろりぽっぷ小学校は、子どもを「未熟な存在ではなく、自ら育とうとする力を持った存在」とするが、このことは通常の教育においても持つべき視点であり、本市教育大綱のキーワードは、①生命尊重・人権尊重、②生きる力・生き抜く力、③多様性、包摂性、④郷土愛を掲げているが、これらを改めて思い起こすきっかけともなった。この4つのキーワードは不登校支援に大きく貢献すると考える。



(視察研修の様子)

岩手県北上市

○人 口 91,201人(令和6年8月31日現在)

○面 積 437.55km²

○議員定数 26人

○視察調査事項

『企業誘致の取組について』

1. 視察地選定の理由

当常任委員会では「企業誘致と雇用創出について」を研究テーマの一つとしているが、栃木市においては、現在栃木インター産業団地にデータセンター企業の誘致を行うなど、産業団地の開発と企業誘致に力を入れている。

視察先とした岩手県北上市においては、これまでに企業誘致を核にしたまちづくりを進めており、他市に先駆けて工業団地の造成、積極的な企業誘致等、工業都市形成の施策に取り組んできており、半導体メーカーであるキオクシアなど300社を超える企業が立地する産業集積地を形成している。

上記の点から、同市の取組と具体的な成果等を調査するものである。

2. 北上市の企業誘致の取組について(研修説明内容)

(1) 北上市の概要

北上市は岩手県のほぼ中央に位置し、北上川と和賀川が合流する肥よくな土地に田園地帯が広がり、西に奥羽山脈、東には北上山系の美しい山々が連なり、豊かな自然環境に恵まれている。

市内には国道4号とJR東北本線の南北幹線と、国道107号とJR北上線の東西幹線が交差し、古くから交通の要衝として栄えている。

また、東北縦貫・横断道(釜石・秋田線)、東北新幹線などの高速交通体系も整備され、北東北の十字路として、交通の利便性はますます高まっており、岩手県の県庁所在地盛岡市まで48km、宮城県仙台市まで138km、東京まで490kmの距離にあり、最速の新幹線で北上一盛岡間を15分、北上一仙台間を42分、北上一東京間を2時間16分で結んでいる。

○都市基盤(インフラ)整備の経過

- ・昭和47年(1972年) 東北新幹線 北上駅停車決定
- ・昭和49年(1974年) 国道4号北上バイパス開通(4車線拡幅)
- ・昭和52年(1977年) 東北縦貫道完成、北江釣子IC設置
- ・昭和57年(1982年) 東北新幹線開通
- ・平成9年(1997年) 東北横断道(秋田道)開通、和賀西IC設置
- ・平成31年(1997年) 東北横断道(釜石道)開通

(2) 企業誘致の経緯

昭和の初期、主産業は農業（米作）で、収穫・収入は天候に左右され、不安定であり、長男が跡を継ぎ、その他の兄弟は地域に働き場所が少ないため、東京などの都会へ転出していた。

子どもを家に残し、地域を発展させるためには、産業の振興が不可欠であり、農・商・工がバランスよく発展していくことが望ましいが、ポイントは工業であり、地元の工業を育成するには時間がかかるが、工場を誘致すれば、産業と雇用が生まれると考え、地域全体で工場（仕事場）誘致による地域振興を図ることとした。

また、工業を担う人材を地元で育成するために、岩手県に陳情を続け、昭和 14 年 4 月に県内 2 番目の工業学校として黒沢尻工業学校（現・黒沢尻工業高等学校）が創立された。その際に工業学校設置のため、敷地 1 万 5,000 坪と建築の総経費 37 万 2,500 円（※）が岩手県から割り当てられたが、岩手県の要求を引き受けた。

※東京ドームの面積 約 1 万 5,000 坪

当時の黒沢尻町の歳出は 20 万 2,500 円

(3) 工業団地について

現在、10 カ所の工業団地を擁し、300 社を超える企業が立地する産業集積地を形成している。

また、半導体関連企業のキオクシア北上工場が 1 兆円規模の投資を行い、N A D A フラッシュメモリ（※）の製造を行う第一製造棟が 2020 年から製造を開始し、2025 年に第二製造棟が生産を開始する予定である。2022 年 4 月現在、機械設備、産業ガス、半導体製造装置、物流関連などの関連企業の雇用を含め、約 3,000 人が北上工場、またその周辺に勤務しており、第二製造棟の稼働で、さらなる雇用増が見込まれている。

※ 3 次元に積層した記録媒体。これまでの記憶デバイスに比して省電力化・大容量化・書込速度が向上。電源が切れてもデータを記録。身近な例では、スマホ・P C 等で動画・音楽・写真の保存に使用しており、全世界で高速データ通信に向け、データセンター等のハードディスクがメモリにシフトするとともに、自動車の電装化やテレワーク環境なども含めて需要は増加の見通しである。



(出典：北上市HP)

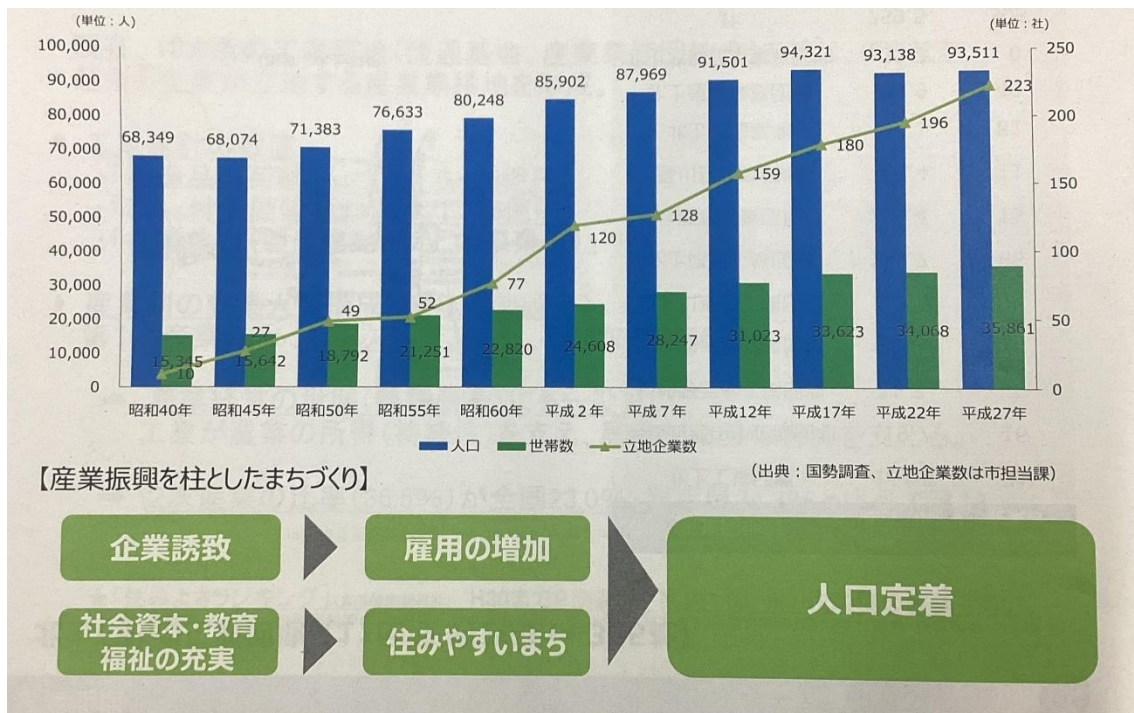
工業団地等	団地面積 (ha)	操業企業数
北上工業団地	164.5	31
飯豊西部中小企業団地	19.7	16
村崎野西部工業団地	21.3	7
北上機械鉄工業団地	6.9	16
和賀川東部工業団地	18.3	2
北上南部工業団地	197.7	86
後藤野工業団地	140.4	15
竪川目工業団地	27.4	11
北上流通基地	94.1	81
北上産業業務団地	36.9	40
北上北部産業業務団地	32.3	0
計	759.5	305

2024年7月現在 北上市商工部企業立地課調べ（研修資料より抜粋）

(4) 企業誘致の成果について

企業立地数は、昭和40年（1965年）の10社から平成27年（2015年）の223社となり、20倍以上に増加している。企業立地数の増加は雇用の増加から社会資本・教育・福祉の充実と相まって人口定着へとつながり、昭和40年は68,349人であった人口が平成27年には93,511人となり、1.37倍に増加している。人口は平成17年（2005年）にピークを迎え、減少に転じたが、全国的な人口減少下においても、その後横ばいの状況を維持している。

「住みよさランキング（東洋経済新報社）」において、平成30年（2018年）まで9年連続で県内1位となっており、住環境の評価も高い。



（研修資料より抜粋）

4. 所感

- ・公営企業においては、中長期的な基本計画である「経営戦略」の策定が必要とされている。北上市では、これから公営企業として事業を実施しようとしている北部産業業務団地整備について経営戦略を策定した。総務省より示されている「経営戦略策定・改定ガイドライン」においては、10年以上の合理的かつ中長期的な期間を設定することが必要であるとされているが、当事業においてはできるだけ短期間での事業完了を目指して取り組む内容となっている。また北上市議会議長のあいさつでは、「昭和29年から産業団地に着手している。その発端は、地元に残男を残し、他

の兄弟は集団就職で上野駅に向かう姿を親たちが見送り、それに耐えられないとの思いから産業に注目した。」との説明をいただいた。なお、近年、半導体企業の誘致に成功し、1兆1千億円の投資がなされたとのことである。今、栃木市では教育を受けたら、都会に就職するケースが多い。これから、栃木工業高等学校、栃木商業高等学校、栃木農業高等学校が統合していくが、卒業生の就職先も重要視していく必要がある。

- ・栃木市のNTTグループデータセンター整備はどのように捉えて良いのか、今後の予測と検証が必要であると、視察を終えて感じた。
- ・北上市の企業誘致、産業団地の計画については、元々戦後において、地元の若者を都会に出さない、我が家の次男以降の子どもを地元に住ませるために、働く場所を地元を作りたかったためであったとの説明があり、時代がそうであったとはいえ、当時の方たちの先見の明を感じた。それが現在では多くの企業が市内に誘致され、市の財政においても大きな税収につながっている。本市においては、視察前日にデータセンター誘致の計画が出たばかりであったが、北上市の説明を伺い、誘致の方向性は間違いないと感じた。働き手の数は多くはないかもしれないが、人の往来が多く、税収も期待できる。本市においては、データセンター誘致を進めるとともに、地域の特性に合った産業団地の整備や商業施設の誘致に力を入れていきたいと考えた。
- ・本市においては、ようやく産業団地の整備と企業誘致に本腰を入れ始めた状況にある。県内では、宇都宮市、真岡市、芳賀町、小山市などは誘致活動を早い段階から始めており、本市と比較すると財政状況は良いものと認識している。本市においては、データセンターの誘致が内定し、今後企業誘致を推進し、財政状況の改善につなげるべきであると感じた。そして住民サービスの向上を図るべきと思う。
- ・北上市は、東北新幹線北上駅、国道4号北上バイパス、東北縦貫道北上江釣子IC、東北横断道和賀西IC等、インフラが充実している。企業誘致には交通の利便性が重要であると感じた。本市も、東北道栃木IC・佐野藤岡IC・都賀西方スマートIC、北関東道都賀ICと4つのインターチェンジを有しており、新幹線の停車駅はないが、非常にポテンシャルの高い地域であると考えます。工業を担う人材を育成するために岩手県に陳情を続け、昭和14年4月に県内2番目の工業高等学校として黒沢尻工業高等学校が創立された。昭和初期から当時の黒沢尻町が取り組んでいたことは素晴らしいと感じた。北上市商工部企業立地課長よりご説明をいただいたが、職員としての意識の高さに感銘を受けた。
- ・昭和初期以来、農業から工業誘致に重点置いた地域振興の発想は、我が国の時代の進展とともに北上市を大きく飛躍させたことが、北上市の担当

課長の説明と資料、そして現地の産業団地を見学し、理解することができた。これまで、人口は近年でもほぼ横ばいで推移してきたが、減少傾向に転じ始めたところだと懸念を示されていた。また、ものづくり志向による雇用人口確保についても危惧されていた。今、全国的に地方創生が注力すべきは雇用の場の創出と言われていることを考えると、今後も1兆500億円といった巨額の投資が見込まれるのは他の自治体からすれば羨望の的ではない。しかし、そこには地理的要因も加味した労働力不足を危惧する力量には感服した。本市においては、誘致予定のデータセンターは数年後に8000億円の巨額投資が予定されているが、最先端の職種であり、人気のある雇用企業となることが予想される。ものづくり中心の業種を含め、労働生産性の向上は官民を含めて、喫緊の課題となっていることから、全国的にITを活用して大きく改善していくものと考えられる。雇用に対する工場誘致の力を実感した。この北上市の歴史的な社会実験の良い点は積極的に取り入れていくべきであり、一方で市全体のまちづくりの視点も忘れることがないよう肝に銘じたい。